

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ネットボラロッツ		
○保護者評価実施期間	令和7年10月8日		令和7年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日		令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	通所している子どもに対しての支援で、子どもたちに対して視覚的な支援を実施している。	実物や絵、文字を示して視覚的にわかるようにすることで言葉の「イメージがつく」「理解ができる」「見通しが持てる」「注目してみられる」「自分で確認ができる」等のことにつながり、子どもの安心につながる。 視覚の提供の仕方を工夫し、個別的なニーズの違いにより支援の仕方を考えるようにしている。	職員誰もが子どもにとって必要なことを考え、理解しながら支援につなげていくため、知識を身につけたり、支援技術を高めていくこと。 保護者に対しても何のために、どのように支援をしているかを伝えていく。
2	組織内(事業所内)に様々な専門職がいることで多職種連携がとれる。多職種がいることで多角的にアセスメントをすることができたり、様々な専門職の視点から子どもと保護者を支えることができる。	公認心理士、言語聴覚士、作業療法士、音楽療法士、保育士、社会福祉士などの資格を持った専門職が専門的な支援や評価を行う。多職種が連携することで一人ひとりの子どもの発達段階や特性の理解につながったり、個々の子どもの家庭環境や社会環境の調整につなげる。	支援の中で専門性をいかすための取り組み、カリキュラムやさらなる活動の充実。 専門的な視点の共有、情報交換の機会の拡充
3	地域連携を重視している。地域の中で子どもが育つということを大切に考え、地域の保育所・幼稚園・学校をはじめ・行政や医療、福祉、教育関係の方々共同して支援ができるような体制づくりを目指している	保護者の方々が子育てを楽しめるようなサポートを考え、子どもの成長や力、進路や相応しい環境等保護者と一緒に考える。保育所等訪問支援ではアウトリーチを行い、子どもが過す場所が少しでも安心し、過ごしやすくなるように、努めている。支援を当事業所だけで抱え込まず、地域の様々な機関とつながりながら支援ができるように連携を大切にしている。	地域の様々な機関、携わる方々の生涯や特性の理解、子どもたちの受け皿をどう拡充していくかを考え、当事業所の主催する学習会の開催をしている。 当事業所の実際の支援を関係する方々に見てもらい、具体的な支援について検討する機会を大切にしている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域で療育を必要としている子どもに早期の段階からかかわること。 ・地域に根差した支援の強化	・地域の方々に早期の療育の重要性・必要性を伝えていくこと ・地域の方々に施設のことを知ってもらう発信	・地域の方々に向けた広報や取り組みを紹介できるようなシステム作り ・行政、特に福祉・教育・医療関係のつながりの強化。子どもに関わる方々への学習会などの開催の継続
2	・施設内の支援の課題として、行事や大勢が集まる時の場所や部屋の確保 ・様々な年齢、発達段階、発達特性の子どもが通っているため、それぞれに合った活動(特に運動ができるスペースや遊具)ができるような環境づくり	・施設内や園庭のスペースが限られているため、活動や行事の開催に制限がある ・子どもの状況や発達段階により、ふさわしい環境が多様であり、それぞれに合わせるためにはスペースの確保や大型教具などハード面の充実も必要だがすぐに整えることは難しい	・施設内で取り組むことが難しい時には地域の資源を利用した場所の確保をしていく ・施設内で活動を取り組む必要がある時には、使用時間の工夫や、目的に応じたことができるようなアイデアを取り入れる
3	・安定した人材の確保と組織への第三者の介入の実行	・福祉職は一般的に好待遇とは言えない。現場の支援は責任の重さがあり精神的・身体的な負担も大きく多忙である。専門的な知識や技術、人的な連携・協力も必要でストレスを抱えやすい。 ・現状で第三者が介入する機会を持っていない	・ハード面をすぐに整えることは難しいが、知識や技術を高める研修等の開催、面談やミーティングを通じた相談できる体制の強化。ストレスを軽減できるような仕組みと、若い職員や経験の浅い職員の育成に向けた取り組みの強化 ・第三者が入ることのメリットや風通しのよさを考え、取り入れることを検討していく

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援センター ネットワロックス

公表日 令和8年3月16日

利用児童数

29

回収数

25

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	3			狭いと思う時もある。 活発に動く子が多いと、狭い感じがする。	運動遊びなど活動によっては十分とは言えないです。グループ分けをしてスペースが確保できるようにしたり、施設外の活動を取り入れることもあります。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	19	4	1	1	子どもは手厚く見て頂いています。 職員の入れ替わりが多い気がする。 手のかかる子に先生がつくので少ないかも。	基準よりも多く配置していますが、日によって利用者の増減があったり、配置人数が変わることがあります。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	2				視覚的、場所的に子どもにとってわかりやすく見通しがつき活動しやすいような支援を心掛けています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25					引き続き清潔で安全に過ごせる環境づくりをしていきたいと思っています。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23	2				子どもの発達段階や特性を踏まえたうえでより良い支援をしていけるように、専門性を高められるように努めます	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23	1		1		計画した支援内容をもとに、プログラムを立てていますが、その周知にも気を付けたいと思います。	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23	1		1		様々なツールを使ってアセスメントを行い、それをもとに計画を立てています。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23	1		1		個別支援計画の中にそれぞれの項目を取り入れ計画を立てています。より丁寧な説明に努めます。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23	2				個別支援計画を作成し、支援計画に基づいて支援を行っています。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	2		2		子どもの発達段階や興味、その時々の実態に応じた内容を考えながらプログラムを作成しています。	
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	11	4	7	3		地域の園と並行通所をしているお父さんや、地域の園へと移行をしていくお父さんが多数います。施設内の全員が交流する機会の確保はできておらず今後の課題です。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24	1				利用の際に説明をするようにしていますが、丁寧な説明を心掛けたいと思います。	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25					計画作成にあたっての面談、作成後の説明と同意、文書の配布をしています。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	1			親が多くの方が情報を得ることができ、子どもに対して対処しやすくなった。	学習会の開催や個人懇談、家庭訪問等の機会を設けながら、ニーズをとらえたり、情報の提供ができるように心がけています。	
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25				子供があまり言葉を話せないため、いつも詳しく出来事を教えてくれます。 親が気付けない子供の成長を教えて頂きありがとうございます。	引き続き子どもの様子や状況が伝えられるように努めます。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24				1		相談しやすいような環境づくりを考えていきたいと思っています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23	1			1		できるだけ寄り添った支援ができるように努力したいと考えます。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18	4			3		学習会は実施していますが、参加がかなわない人に向けた支援方法を見出した。参加しやすい場を提供していくことは課題です。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23	2				できるだけ寄り添った支援ができるように努力したいと考えます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	1		1	どのような事を配慮と指しているのかわからない。	必要な時にできるだけすぐに対応したいと、相談LINEを設けたり相談の機会の提供を心掛けていますが、タイムリーにできていないこともあとと感じています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	23			2	最近、来るようになったLINEでの活動記録が特に良い。	利用してもらいやすいツールで、より子どもの様子や情報が伝わりやすいようにしていきたいと思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22	1		2		個人情報の管理に気を付け、文書で取り決めを行うなどの対応をしている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22	1		2		各マニュアルの策定をし、受付のところにいつでも閲覧できるようにしています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24			1		月に1度必ず時間帯や想定を変えて避難訓練を行っています。事前に日程をお知らせし、実施後は連絡帳に記入しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24			1	安全を確保するための計画という所がわかりにくい。	定期的な研修や訓練の実施など安全対策を考え、安全に配慮した支援をしていけるように計画していますが、周知できるように努めます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23	1		1		できるだけ早い対応をして保護者の方への説明をして、安心につながるようにしたいと考えています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	23	1		1		安心した気持ちで通ってきてくれるように努めたいと考えています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21	3		1	通う日をご褒美と言って心待ちにしています。行き渋らないので楽しいんだと思う。	いつも楽しい気持ちで通えるわけではないと思いますが、子どもにとってできるだけ楽しい場所であるようにしたいと考えています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	24	1			いつも向き合って頂き感謝しています。家族が前向きに生活出来ているのは先生方のおかげです。	十分にできていることは少ないと思いますが、子どもや保護者の方々の声を大切にできるように支援をしていきたいと思っています

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター ネットワロッツ				公表日	令和8年3月16日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容や目的によって、スペースをできるだけ確保できるようにグループ分けの利用や施設外での活動を実施している	体を動かす活動や人数が集う行事など、スペースが十分とは言えないため、目的や活動内容を考慮しながら柔軟に対応する。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準通りの人員配置では適切に支援ができないことがあるので、子どもの様子や段階に応じて専門職も含め人員を配置している	支援の質を高めながら、子どもや保護者・職員が安心して過ごせるような人員配置ができるように工夫していく	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚的な支援、時間的・空間的・人的な構造化、などを考慮している	特性に応じた支援、合理的配慮を全ての職員で共有しながら実践につなげていくこと	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		できるだけ清潔で、子どもに刺激を少なくした環境を提供できるようにしている	収納スペースなど限られているので、機能的に使えるようにしていくこと	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クラスの部屋以外にも活動別に使用場所を変えて構造化をはかったり、個別支援を行う部屋を設置している	支援内容や子どもの取り組みやすさに応じて環境を常に考えていくこと	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		基本的に業務はPDCAサイクルの循環ができるようにしている。特に支援内容はその時々の子どもの合わせた計画を立てている	共有するための時間の確保や共有方法の検討	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表、懇談などで意見を出してもらっている	意見を出してもらいやすい機会や雰囲気大切にしながらサービス向上につなげていくこと	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		会議や研修、ミーティングの機会を活用している	様々な立場の職員が対等にものを言える雰囲気づくりや組織的な取り組み	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			現時点では第三者による外部評価は実施できておらず、課題としている	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修の機会を定期的に設け、実情を踏まえた研修内容になるように企画している	法人内では補いきれない研修を考え、体制や時間を確保しながら受けていくこと	
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		年度当初に保護者向けの冊子に記載し配布している	内容を周知していくこと	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		表数化されたアセスメントツールと支援者による観察により分析し、支援計画に反映させ保護者に伝えるようにしている。	全職員が適切なアセスメントをする視点を持つこと	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々の子どもの様子をミーティングや事例検討、記録に残すことで把握できるようにしている	全職員が共通理解を持てるようにするための機会や方法の検討、コミュニケーションをどのようにしていくかという組織的な検討	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画を立てるまでの子どもの様子や発達段階の共有を重視し、計画はすぐに確認できるようにしている	全職員が計画と支援を照らし合わせられているか。計画に沿った支援とは具体的に支援の中でどんなことなのかという認識の共有	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールやフォーマルアセスメントを使用し専門職による評価を行っている。日々の行動観察は記録に残している	全体共有をするための方法や時間の確保	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援計画の中に各項目の内容が入っている。 移行支援、地域支援、地域連携は、各こどもの進路や併行通所の検討、訪問支援などの内容を含んでいる	各保護者の方にもわかりやすい記載の仕方をしていくこと	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		プログラムの内容により、どのようなチームで立案していくかが異なっている。	支援内容を重視しつつ、職員の負担の軽減、効率化も踏まえながら検討していくこと	

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの発達段階や年齢、所属グループの実態などに応じて支援の仕方やプログラムの構成ができるようにしている	職員間でより良い支援をするための気づきや検討をしていくこと
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの様子や段階、年齢、グループ構成などにより集団での支援、個別支援の在り方を検討し、実施している	個別支援を行った後の情報の共有
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝のミーティングを実施、記録に残しすべての職員に共有できるようにしている	ミーティングに参加しない職員への徹底。連携するためのコミュニケーションをはかっていくこと
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		決まった時間にその日の振り返りを行い、記録を残している	勤務時間の都合上、全ての職員が振り返りに参加できていないので記録だけでは共有しきれないことがある
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録の他、ヒヤリハット、個別的・専門的な支援記録等、支援の中で必要と思われる記録を残し、次の支援に生かせるようにしている	記録を残すことで情報が必ず共有できるようにしているが、認識の一致をはかることや、記録と共有のための時間の確保は課題
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		最低半年に一度はモニタリングを実施している	各専門職や支援にあたるチーム全員でモニタリングしていくこと
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		当センター内に相談支援があり連携しやすい。その他で会議が開催される時には可能な限り出席する用意している	他の相談支援事業所との連携や市町がまたがるケースの連携を強化していくこと
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		アウトリーチの機会が多く、連携が必須となっている。各機関との連携をできるだけ強化できるように顔の見える関係を大切にしている	様々なケースを通して一緒に支援を考える機会は増えているため、今後も体制を整えながら連携する必要がある
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併行通所の利用や地域の園への移行は増えており、地域の園からの移行も増えている。またそれらができる体制を整える努力をしているところである	地域移行を進めるにあたり、その受け皿である保育や教育機関が抱える問題にも直面する。地域や各機関の事情も知ったうえで、一緒に子どもや保護者を支える仕組みを作っていくことも必要
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の同意のもと必要な情報をできるだけ共有し、スムーズな移行につなげられるようにしている	共有の機会や時間を確保していくこと、認識を一致させていくことは課題
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		自立支援協議会の参加や、他の事業所への移行や連絡調整、必要なサービスの情報共有などを行うようにしている	自立支援協議会の中で地域の課題を共有し、より良いシステム作りを考えているところだが、認識を一致させていくことは今後も課題である
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		外部研修の参加する機会は設けているが、回数としては少ない	研修を受けるための時間の確保、それに伴う支援の体制作りは課題。アップデートが必要なことや外部からの視点を取り入れることも課題
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会には参加している	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		全園児が交流する機会は持っていない	今後の課題としている
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		登降所時に保護者の方と直接話すことができるので、日々の様子を話したり、連絡帳のやり取り、懇談や参観・学習会の機会を設けている	保護者が知りたい事と事業所が伝えたい事を考慮していくこと。保護者にお子さんのことを知ってもらうための機会の確保と積極的に参加してもらうための仕組みづくり
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		学習会や懇談の機会を設けている	学習会に参加してもらったり、園が主催する催しに参加を促すこと
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に必ず説明を行っている	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		幼児に対して子どもの意思を確認することが難しいため、保護者や担当の支援者の意見を聞いている	保護者のニーズと子どものニーズが違うことも多いため、分けて考えるようにしている
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者に直接話をするようにし、記名してもらっている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		半年に1度懇談の機会を設けたり、学習会、相談LINEなどを活用している。直接園に送り迎えをしてもらっているため、その時に話すことも多い	身構えず相談しやすい雰囲気や環境づくり、タイムリーに相談できるようにしていくことは常に努力が必要
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会という名前ではないが学習会や行事の時に保護者同士の交流の機会を兼ねている	きょうだい児も小さい子どもが多く、きょうだい同士の交流の機会は設けていない
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		できるだけ保護者からの相談や様子を職員で確認し、ニーズを吸い取りやすいように考えている	体制の確保が難しい時には迅速な対応が必ずしもできていないこともある
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的なおたよりの発行、SNSの活用、連絡帳などにより情報発信するようにしている	できるだけ情報を得やすいように、必要な情報がわかりやすく周知できるようにしていくこと
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		できるだけ書面で個人情報の取り扱いを確認するようにしている	職員全体が個人情報の取り扱いに留意すること、常に事業所内の書類やデータ管理に気を付けるようにすること
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		低年齢の子どもを支援するため、意思疎通や意見を表明しにくいことが多いが、本人が要求を出せるようになり取り組んだり、視覚的な支援などを通して本人が理解し、納得して過ごせるように心がけている	言葉を獲得していない子どもに支援をする中で意思疎通をどのようにしていくかは常に課題にしている。日本語を母語としない保護者への支援読み書きが困難な人への支援なども課題である
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			地域住民と交流する機会はほぼ持っていないので今後の課題である	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		常時玄関の受付に備え付けている	目に見えるところにはおいているが、意識しないとどこに置いているかを知らない方も多いためと思われる
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定したうえで、定期的な避難訓練を行っている	BCPの内容は常に見直しが必要である訓練はしているが、様々な想定をしたり、体制が少ない時の避難をしていく必要がある
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		服薬、予防接種の実施状況は書類で残している	服薬など変更があった時に必ず確認をしておくこと
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーについては事前に聞き取りをし、医師の確認をもらうようにしている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		作成している	内容のアップデートをしていくことや、その時々体制や子どもの実態に応じて必要なことを考えていくことが必要
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		防災カードへの記入や引き渡しカードの利用など行っている	十分な取り組みとは言い難いこともあり、必要なことを考えたり、家族への周知の仕方も含めた検討が必要
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事案は記録を作成し、再発防止やより適切な支援につながるようにしている	ヒヤリハット事案に相当するかどうかの判断で、支援者誰もが感度を上げ、記録をしていくこと
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、研修計画を立て必ず研修を行うことにしている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束に関わる事案の記録を作成し、やむを得ない拘束を検討する必要のある子どもについては支援計画に記載している		